



Photostud

THE HOKKAIDO SHIMBUN HAI QUEEN STAKES

第73回 北海道新聞杯 クイーンステークス (GⅢ)

1着 賞 38,000,000円 2着 15,000,000円 3着 9,500,000円 4着 5,700,000円 5着 3,800,000円
付加賞 525,000円 150,000円 75,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝、3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳52^{kg}・4歳以上55^{kg}、2024.7.27以降GⅠ競走1着馬3^{kg}増、GⅡ競走1着馬2^{kg}増、GⅢ競走1着馬1^{kg}増、2024.7.26以前のGⅠ競走1着馬2^{kg}増、GⅡ競走1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

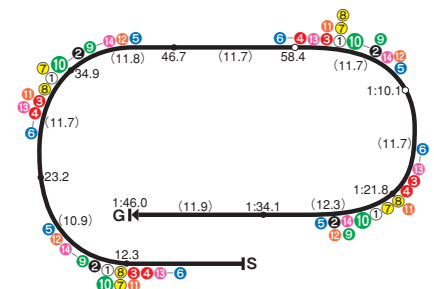
2025.8.3 札幌 晴・良 芝1800^m (国際) (特招)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	アルジーヌ	牝 5	56	川田将雅	1:46.0	6-6-6-6	34.9	460(+2)	2.9①	中内田充正(栗東)	106
2	④	コナツツブラウン	牝 5	55	北村友一	アタマ	12-12-13-11	34.0	470(+20)	4.0②	上村洋行(栗東)	103
3	②	フェアエールング	牝 5	56	丹内祐次	1/2	5-5-4-2	35.5	462(+8)	7.5④	和田正一郎(美浦)	104
4	⑪	ライラック	牝 6	55	石川裕紀人	1/4	10-10-10-9	34.6	454(+12)	39.1⑩	相沢 都(美浦)	100
5	①	パレハ	牝 4	55	鮫島克駿	クビ	6-7-7-7	35.0	440(-8)	26.5⑧	新谷功一(栗東)	104
6	⑩	ビヨンドザヴァレー	牝 5	55	菱田裕二	アタマ	4-4-4-4	35.7	480(+10)	24.6⑦	橋口慎介(栗東)	100
7	⑧	シングザットソング	牝 5	56	武 豊	1/4	8-9-7-9	35.1	446(-4)	43.0⑪	高野友和(栗東)	
8	⑫	アリスヴェリテ	牝 5	55	池添謙一	3	2-2-2-2	36.8	482(±0)	11.2⑥	中竹和也(栗東)	
9	③	クリスマスパレード	牝 4	57	横山武史	ハナ	13-12-12-13	35.1	468(+8)	8.3⑤	加藤士津八(美浦)	
10	⑦	レーゼドラマ	牝 3	53	R.キング	1	8-7-7-8	35.9	476(+16)	7.2③	辻野泰之(栗東)	
11	⑥	ドナベティ	牝 4	55	藤岡佑介	1/4	14-14-14-14	34.9	428(-2)	161.5⑫	矢作芳人(栗東)	
12	⑤	グランスラムアスク	牝 6	55	古川奈穂	クビ	10-10-10-12	35.8	470(+6)	304.0⑬	矢作芳人(栗東)	
13	⑤	コンクシェル	牝 5	55	佐々木大輔	1/4	1-1-1-1	37.5	482(-4)	162.5⑬	清水久嗣(栗東)	
14	⑭	フィールシンパシー	牝 6	55	横山琉人	1/4	3-3-3-4	37.3	456(-6)	29.1⑬	小島茂之(美浦)	

単勝⑩290円(1^{kg}) 複勝⑩120円(1^{kg}) ④150円(2^{kg}) ②170円(3^{kg}) 格連③-⑥730円(1^{kg})

馬連④-⑩800円(1^{kg}) ワイド④-⑩350円(1^{kg}) ②-⑩360円(2^{kg}) ②-④590円(6^{kg})

馬単⑩-④1,740円(3^{kg}) 3連複②-④-⑩1,730円(1^{kg}) 3連単⑩-④-②6,540円(1^{kg})



アルジーンヌ Argine

牝 黒鹿毛 2020.4.25生

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産

馬主・株ロードホースクラブ 栗東・中内田充正厩舎

馬名意味・トランプのクラブのクイーンに描かれた絵柄の人物名

ワンフォローローズCAN系 F12-d

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
		マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サラトガデューUSA
キャトルフィユ 鹿毛 2009	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
		Tejano Run Saucyladygaylord
	ワンフォローローズCAN 黒鹿毛 1999	

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

加藤健場長(ケイアイファーム)

誇らしい気持ちと責任を感じます

激戦だったヴィクトリアマイル以来の出走で、さらに異常な暑さの中での競馬でしたが、関係者の方々のご尽力があり、無事にゴールしたことに安堵しています。母がクイーンSを勝ってから11年後の母仔での制覇に、「強い馬づくりを目標に牧場の皆で継続的に取り組んできた結果だ」と少し誇らしい気持ちと、「また次の強い馬を作らなければ」という責任を感じます。

H.Yamanaka



主導権争いはスナナリと決着。しかし前半1000mの通過は58秒4とかなり速い流れ、縦長の隊列でレースは進む。アルジーンヌの川田将雅騎手は、フェアエールングを3馬身ほど前に見る形で離れた6番手を追走。ゲートで後手を踏んだものの、すぐに巻き返したレーゼドラマがその直後につけ、ココナツブラウンは後方2番手でじつくりと末脚を温存した。

3コーナー過ぎからはフェアエールングがいち早く前に接近し、川田騎手もあわせて進出を開始。エンジンに火がついたアルジーンヌは先行勢の外に迫って4コーナーを回り、そのまま勢いに乗って先頭に躍り出る。ゴール前では内々を突いて追い込んできたココナツブラウンが強襲。とはいえ、内外離れた追い比べの軍配は最後までしっかり伸びたアルジーンヌにあがった。

母キャトルフィユは14年の優勝馬で、父はロードカナロア。両親から受け継いだ良血を着々と開花させてきた本馬が、初めて重賞に挑んだレースが昨年のクイーンSだった。このときは3着に敗れたものの、暮れのターコイズSで初のタイトルを獲得。今春も阪神牝馬Sがハナ差2着、ヴィクトリアマイルも小差の4着と好走を重ね、この日は一枚上の地力をアピールして母に続く勝利を掴んだ。1年前の雪辱も果たして迎える秋は、どの路線へ進むとしても目を離せない存在となる。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央、香19戦13勝(香港スプリント^{G1}2回、安田記念^{G1}、スプリンターズS^{G1}2回、高松宮記念^{G1})、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20~24年日本リーディング2位〔代表産駒〕アーモンドアイ(ジャパンC^{G1}2回、ドバイターフ・首^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}2回、牝馬三冠)、サートゥルナーリア(皐月賞^{G1}、ホープフルS^{G1})、ダノンスマッシュ(香港スプリント^{G1}、高松宮記念^{G1})、ハンサラッサ(ドバイターフ・首^{G1}、サウジC・沙^{G1})、ベラジオオペラ(大阪杯^{G1}2回)、ステルヴィオ(マイルチャンピオンシップ^{G1})、サトノレーヴ(高松宮記念^{G1})、ファストフオース(高松宮記念^{G1})、プレイディヴェーグ(エリザベス女王杯^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母キャトルフィユ

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央25戦4勝(クイーンS^{Gm}、忘れな草賞^{Op}、かもめ島特別、愛知杯^{Gm}2着2回、中山牝馬S^{Gm}2着)

ロードラウレア(16 牝父ロードカナロア)中央7戦0勝、地方64戦4勝

ロードプレジール(18 牝父キングカメハメハ)中央21戦3勝(茶臼山高原特別)、障害4戦0勝 ⑧

サンクフィユ(19 牝父ロードカナロア)中央11戦3勝

アルジーンヌ 本馬(20 牝父ロードカナロア)中央14戦7勝(クイーンS^{Gm}、ターコイズS^{Gm}、カシオペアS・L、博多S、太宰府特別、遊楽部特別、阪神牝馬S^{Gm}2着、クイーンS^{Gm}3着) 獲得総賞金223,666,000円

メルトユアハート(21 牝父ロードカナロア)中央12戦3勝(中京日経賞、一乗寺特別) ⑧

フィオレストラダ(22 牝父エビファネイア)中央2戦0勝 ⑧

スレイクイーン(23 牝父ロードカナロア)

(25 牝父スワーヴリチャード)

※17(生後直死)、24(前年種付せず)

祖母ワンフォローローズCAN

北米15勝(シーグラムC・加^{G3}、メイブルリーフS・加^{G3}2回、オンタリオメイトロンH・加L2回、シーグラムC・加L、アルゴマS・加3回、ジョージCヘンドリーH・加^{G3}2着)、カナダ古牝馬チャンピオン3回、06年輸入、19年用途変更、レディアルパローザ(中山牝馬S^{Gm}2回、ヴィクトリアマイル^{G1}3着、フィリーズレビュー^{Gm}3着、朝日チャレンジC^{Gm}3着)、エンジェルフェイズ(フラワーC^{Gm})の母、オールフォーラヴ(米子S・L、忘れな草賞^{Op})、ロードレゼル(青葉賞^{Gm}2着)の祖母

1 番人気の期待に応え母仔制覇も達成

2023年のドゥーラ、昨年のコガネソラと、3歳馬の勝利が続いてきたクイーンSだが、今年の主役は5歳勢。ターコイズSの覇者アルジーンヌと5月の3勝クラス特別を豪快に差し切ったココナツブラウンが1、2番人気の支持を集め、フラワーC勝ちの3歳馬レーゼドラマがこれに挑む図式が描かれた。結果は4番人気のフェアエールングも含め、5歳馬たちが1~3着を独占。なかでもG1好走の実績を持つアルジーンヌが背負った期待に応え、母仔制覇の快挙を達成した。

内めの枠を引いたコンクシエルがスタートを決めて先手を主張すると、同型のアリスヴェリテは2番手に控え、

母キャトルフィユは14年の優勝馬で、父はロードカナロア。両親から受け継いだ良血を着々と開花させてきた本馬が、初めて重賞に挑んだレースが昨年のクイーンSだった。このときは3着に敗れたものの、暮れのターコイズSで初のタイトルを獲得。今春も阪神牝馬Sがハナ差2着、ヴィクトリアマイルも小差の4着と好走を重ね、この日は一枚上の地力をアピールして母に続く勝利を掴んだ。1年前の雪辱も果たして迎える秋は、どの路線へ進むとしても目を離せない存在となる。